

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
東京ダービー	2017/6/7	SI	大井	2000m	ハイペース	良	総合力

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	クラトリガー	牡3	56	石崎駿	アツミラーレ	サンデー系	ブラックタイアフェア	ミスプロ系	C	C	B	B	C	B		
	2	アンジュジョリー	牝3	54	山崎	タートルボウル	ノーザン系	アグネスタキオン	サンデー系	C	C	B	B	C	B		
2	3	サイバーエレキング	牡3	56	今野	スマートファルコン	サンデー系	アグネスデジタル	ミスプロ系	D	C	C	D	D	D		
	4	ホワイソニック	牡3	56	坂井	キャプテントウレ	サンデー系	ファンタスティックライト	ナスルーラ系	C	C	B	B	C	C		
3	5	スカイサーベル	牡3	56	笠野	ディーブスカイ	サンデー系	ワイルドラッシュ	アイスカベイト系	D	D	D	C	D	D		
	6	ブラウンレガート	牡3	56	的場文	ディーブスカイ	サンデー系	Forty Niner	ミスプロ系	C	C	B	B	C	C		
4	7	カンムル	牡3	56	左海	サマーバード	ミスプロ系	Star de Naskra	ナスルーラ系	C	B	B	B	B	B		
	8	シェアハッピー	牝3	54	和田	ハイアーゲーム	サンデー系	フォーティナイナー	ミスプロ系	D	C	C	B	C	C		
5	9	クラキングス	牡3	56	吉原	アサクサキングス	ノーザン系	サクラタイオー	ノーザン系	C	A	B	B	B	B		
	10	キャンドルグラス	牡3	56	赤岡	サウスヴィグラス	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	A	B	B	B	A	○	
6	11	キャプテンキング	牡3	56	矢野	ファスリエフ	ノーザン系	ブライアンスタイム	ロベルト系	A	A	C	B	B	B	△1	
	12	ソッサスプレイ	牡3	56	柏木	コンデュイット	ナスルーラ系	スペシャルウィーク	サンデー系	B	C	B	B	B	A	▲	
7	13	ヒガシウィルウィン	牡3	56	森	サウスヴィグラス	ミスプロ系	ブライアンスタイム	ロベルト系	A	A	B	B	A	B	◎	
	14	ミサイルマン	牡3	56	笹川	カネヒキリ	サンデー系	クロフネ	ノーザン系	D	B	D	C	C	C		
8	15	サヴァアルジャン	牡3	56	町田	アメリカンボス	ミスプロ系	アドマイヤベガ	サンデー系	出走取消							
	16	ポッドレイージ	牡3	56	瀧川	キングヘイロー	ノーザン系	オンファイア	サンデー系	D	B	C	D	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
サイバ ポッド キャブ ミサイ ヒガシ ブラウ キャン カンム クラキ ソッサ ホワイ アンジ スカイ クラト シェア	<p>南関東クラシックー冠目の羽田盃はキャプテンキングとヒガシウィルウィンの一騎打ちで幕を閉じた。あそこまで後続を引き離してしまうと、東京ダービーでは完全なる2強ムードが形成されるのは間違いなく、誰もが3着候補を探すレースになるだろう。確かにレース映像だけ見ると、あの2頭に割って入る馬がいるのは想像し難いが、レースラップを見ると必ずしもそうは言えないだろう。今年の羽田盃の前半1000m通過は64.1秒。これは過去5年で13年と並び最も遅い通過タイムだった（以下参照）。（中略）今回は逃げ馬不在の羽田盃から一転、逃げないと持ち味がいきなりサイバーエレキングに加え、ツイッターで鞍上の瀧川騎手が逃げ宣言をしているポッドレイージが出走。ファイト溢れる瀧川騎手なら早め先頭で押し切りを狙うはずで、その上にキャプテンキングとヒガシウィルウィンが前々の競馬をすれば、直線は大井外回りの2000mらしい消耗戦になるのではないかと。展開だけですべてが決まった羽田盃から一転、東京ダービーでは大井2000mを走り切るだけの体力があり、単純に能力の高い馬しか残れないレースになると見た。</p> <p>本命は<b>ヒガシウィルウィン</b>。で揺るぎない。羽田盃ではキャプテンキングに敗れたものの、距離適性を考えれば、こちらのほうが上。（以下省略）</p>	<p>ラップタイム</p> <p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	クラトリガー		東京湾カップはソッサスブレイがロスなく立ち回る中、本馬はやや外目を追走。着差ほど2頭の能力差はないはずで、今回、本馬のほうが内目の枠を引いたのであれば、逆転があっても。		
	2	アンジュジョリー		東京プリンセス賞の勝ち時計は前日の羽田盃だと11着に値するもの。乗り替わりもマイナスで常識的に厳しそうだが、2強意外との能力差はそこまでないので、過度に人気がないなら抑えてもいいか。		
2	3	サイバーエレキング		逃げないと全く良さが生きない馬。直線入り口で2強に交わされてお役目終了だろう。		
	4	ホワイトソニック		羽田盃はラチをべったりと回り、いかにもフロックっぽい4着。再度、内目の枠を引けたので、似たような展開になれば出番があるかもしれないが、今回は消耗戦が濃厚。単純に強い馬しか残れないレースになれば、出番はないだろう。		
3	5	スカイサーベル		平和賞を展開がハマって勝ち上がって以降、サッパリな成績。参加するだけだろう。		
	6	ブラウンレガート		成長力あるディーブスカイ産駒で、普通に走られるかもしれないが、中間に順調さを欠いたのはマイナス。中間の調教も明らかに軽めで、的場騎手がいるために出走してきた感が否めないか。戦績、ハブル気味の鞍上で抜けた3番人気になるなら嫌ってこそだろう。		
4	7	カンムル		成長力がなく、クラシック戦線に入って存在感が薄くなっている馬。ただ前走羽田盃は外々を回りながら前との差を詰めており、着順ほど悪い内容ではなかった。今回は大舞台で一発がある左海騎手。不気味な存在といえば、不気味な存在。人気次第で抑える手はある。		
	8	シェアハッピー		東京プリンセス賞は展開不向きだったとはいえ、展開が向いても勝ち切れたかは微妙。マイル前後で切れ味を生かす競馬が合っているのでは。消耗戦の大井2000mで好走するイメージが沸かない。		
5	9	クラキングス		羽田盃は内枠からロスなく立ち回り、これ以上ない競馬で5着。レース内容自体は評価できないが、いかにも大型のスタミナタイプなので、ペースが緩まったのはこの馬にとってプラスではなかったか。消耗戦になれば、意外とパフォーマンスを上げてくるかもしれない。やや怖い1頭。		
	10	キャンドルグラス	○	前走羽田盃はスローペースで「前に行った馬」と「ロスなく立ち回った馬」が上位を占める中、1頭だけ外々を回りながら3着に好走。距離延長がやや心配も、羽田盃のレース内容、血統的なポテンシャル、上昇度を考えれば、引き続きの好走があってもいいはず。		
6	11	キャプテンキング	△1	羽田盃は逃げて上り2位をマーク。スローペースだったとはいえ、能力がないと出来ない芸当だったが、今回は羽田盃とは一転、消耗戦になる可能性が高く、前走は東京ダービーに向けて再現性のある競馬だったとはいえない。大一番で「ファスリエフ産駒の1番人気」というのも感覚的に疑ってみたい気も。		
	12	ソッサスブレイ	▲	東京湾カップは枠順の利を生かしてロスなく立ち回れたとはいえ、直線では追われてからグングンと伸びており、能力があつてこそこの3馬身差だろう。コンデユイト×スベシャルウィークなら距離はいかにも伸びたほうが良さそう。3走前の京浜盃も着順ほどレース内容は悪くなかった。一発ある。		
7	13	ヒガシウィルウィン	◎	羽田盃ではキャプテンキングに敗れたものの、距離適性を考えれば、こちらのほうが上。父サウスウィグラスは意外と距離の融通が利く種牡馬で、特に地方では短距離より中距離の方がいいのでは？と思うほど。南関東ナンバー1騎手の執念にも期待したい。		
	14	ミサイルマン		羽田盃は正攻法の競馬で直線失速。2歳時から完成されていた馬で成長力がなく、こども苦戦必至だろう。		
8	15	サヴァアルジャン		出走取消		
	16	ポッドルイージ		過去10年の東京ダービー勝ち時計は2分5〜7秒台。前哨戦の東京ダービートライアルは2分12秒2で、4秒近く縮めないで勝ち負けない。さすがに能力不足。展開も苦しくなるだろう。		